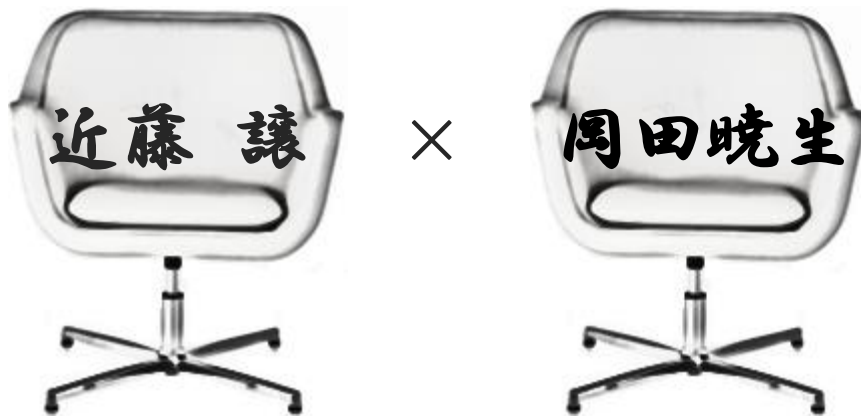


現代の音楽文化をめぐって



◆◆◆ 趣 旨 ◆◆◆

私達が暮らしている社会では、「学問」(特に人文系の学問)や「芸術」といったものが力を失いつつある。そういった嘆きが、最近ますます目立つようです。それは、今やすっかり過去のものになってしまった感のある「教養主義」——かつて教育や人格形成過程の大きな指標であったもの——への郷愁なのかもしれませんが、ともあれ、社会と文化における「学問」や「芸術」の意義と位置付けが大きく変化しつつあることは明らかです。

こうした中であって、今日の私達にとっての「音楽」とは何なのでしょう。私達の生活には、様々に異なった種類の音楽が溢れていて、それぞれの音楽が、それぞれの個人にとって、それぞれの場面で、それぞれの仕方の意味をもっているようにも思えます。そして、「芸術音楽」というもの(もしまだそのような概念が成り立つとしても)は、そこでどのような意味をもち、どのような役割を果たし得るのでしょうか？

積極的に文化評論活動を展開している音楽学者と作曲家が、現代の音楽文化の諸相をめぐって率直に意見を交わします。(文責：近藤譲)

【日 時】 2015年 12月19日(土) 14:00 開始 (開場 13:30)

【会 場】 BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅から徒歩1分)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-1-3 リエール鷹番303号

【出演者】 (五十音順, 敬称略)

岡田 暁生 (音楽学者 / 京都大学人文科学研究所教授)

近藤 譲 (作曲家 / お茶の水女子大学名誉教授)

【受講料】 一般 2,000円 / 学生 1,500円 (先着20名)

【ご予約・お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

～出演者プロフィール～

◆ 岡田 暁生（おかだ あけお）

1960年京都生まれ。京都大学人文科学研究所教授。専門は近代西洋音楽史。著書『音楽の聴き方』（中公新書、2009年、吉田秀和賞受賞）、『ピアニストになりたい』（春秋社、2008年、芸術選奨新人賞）、『西洋音楽史』（中公新書、2005年：韓国語版、2009年）、『オペラの運命』（中公新書、2001年、サントリー学芸賞受賞）など。

◆ 近藤 譲（こんどう じょう）

1947年東京生まれ。東京藝術大学で作曲を学び、在学中からその作品が注目を浴びた。1970年代初頭に、自ら「線の音楽」と名づけた独特の作曲方法論を提唱し、以後国際的に活躍。欧米の多くの主要機関や音楽祭から委嘱を受け、特集演奏会が組まれている。ほぼ全作品の楽譜がイギリスのUYMPから出版され、『オリエント・オリエンテーション』『表面・奥行き・色彩』（以上コジマ録音）をはじめCD録音も数多い。2012年、アメリカ芸術・文学アカデミーの外国人名誉会員に選ばれた。国内外の多くの大学で教鞭をとり、講演をおこなっている。お茶の水女子大学名誉教授。主な著書に、『線の音楽』『聴く人（homo audiens）』（アルテスパブリッシング）、『音を投げる』『<音楽>という謎』（以上春秋社）、『耳の思考』（青土社）など

[access map]



BUNCADEMY

- ◎ <http://bunacademy.co.jp>
- ◎ <http://bunacademy.co.jp/wordpress/>
- ◎ <http://www.facebook.com/bunacademy>

〒152-0004
東京都目黒区鷹番3-1-3リエール鷹番303号
(東急東横線 学芸大学駅から徒歩1分)